

山梨県立博物館

Yamanashi Prefectural Museum

交

い

かいじあむ通信

kai

第58号

2023年9月8日発行
山梨県立博物館

公演衣裳
「ベルサイユのばら」より
(写真提供：宝塚舞台)



の世界歌劇宝塚

小林一三生誕150年

葦崎出身の実業家・

小林一三が創り出した宝塚歌劇。

多くの人々をひきつける魅力と、

そのあゆみについてご紹介します。



こばやし いち ぞう
小林一三 (1873 ~ 1957)

こまぐんかわらべ ならさき
山梨県巨摩郡河原部村(葦崎市)生まれの
実業家。慶應義塾卒業後、三井銀行に入
るが、明治40年(1907)に、箕面有馬電
気軌道(現在の阪急電鉄)の創立に関わる。
田園地帯に敷かれる鉄道に乗客を集める
ため、行楽地としての宝塚の開発や、日本
でも最初期となる住宅ローンによる宅地販
売をおこなった。政財界で活躍する一方で、
ターミナルデパートや東宝などの興行事業、
プロ野球団の創設など、人々が新たな時代
の文化を楽しむ享受するための多くの事業
を実現していった。

2023 10.14 | SAT ~ 12.4 | MON

QUESTION

たからづか か けき
宝塚歌劇に関する質問を3問ご用意しました。
あなたはすべて答えられますか？

清く、正しく、美しく

Q1 大正3年(1914)、宝塚少女歌劇の第1回
公演において上演されたのは、「^{うか だるま}浮れ達磨」、
「^{こちよう}胡蝶」と、あとひとつは？「ド○○○○」
ヒント：桃太郎

Q2 公演の最後(フィナーレ)
の時に出演者が手に持って
いる小道具の名前は？



Q3 令和6年(2024)に初演から
50周年を迎える宝塚歌劇の
演目はなんでしょう？



出演者のドレス

学芸員 おすすめの一品

収蔵資料の見どころを
ご紹介します



この期間に会える!

2023年
8月23日～10月23日
常設展
「江戸文化の往来」コーナー

お気に入りの絵を探してみて

雑魚貼交屏風 二代歌川広重及び門下筆 江戸時代末期 (大木家資料)

初代歌川広重の門人であった歌川重宣は、安政6年(1859)に二代広重を襲名します。この作品は二代広重と同門の重政や重清らが描いた、46 図の絵が貼られた屏風です。二代広重は元治元年(1864)に甲斐国を訪れ、甲府城下町の道祖神祭りに使われる「幕絵」を描いています。

貼交屏風とは?

全体に、絵や書などを貼り込んだ屏風のこと。扇などが貼られている作品もあります。



右隻 (向かって右側に置きます)



左隻 (向かって左側に置きます)

二代広重が描いた山梨の名産品

いろいろな題材が描かれている屏風ですが、ぶどうの絵もあります。二代広重も甲斐国を訪れた際に食べたのかもしれませんが。

ささっと描く!

右下の絵に「ひろしげせきじょう 廣重席上」の文字がありますが、「席上」とはおそらく宴席等の場で即興的に描いた絵であることを示しています。こうしたものを「せきが 席画」と呼びます。



龍王から信玄へ

信玄堤関係資料

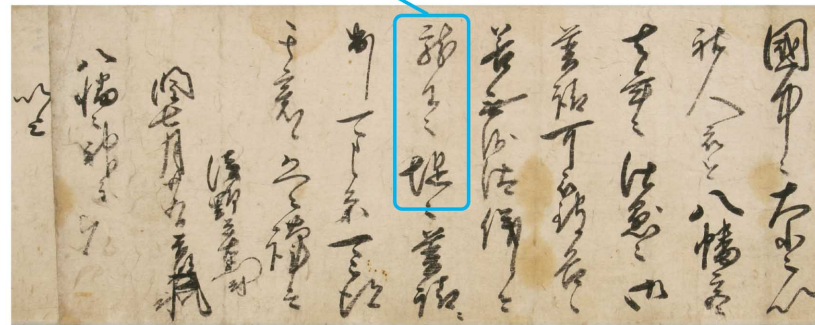
現在「信玄堤」の名でなじみのある釜無川の堤防ですが、永禄3年(1560)の成立当初は、当時の言葉で堤防を意味する「川除」に地名を冠して「龍王之川除」などと呼ばれていました。「信玄堤」と呼ばれるのは江戸時代後期のことでした。

「浅野吉明書状」

文禄5年(1596)(今沢家文書)

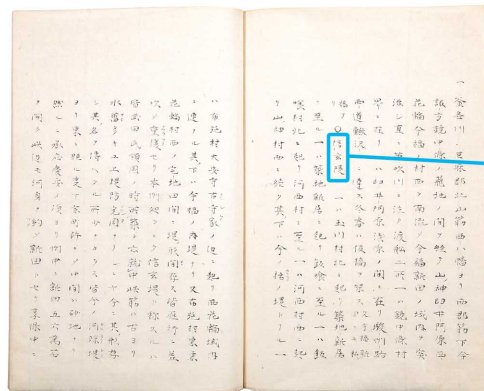
豊臣政権の重臣浅野長政・幸長父子が甲斐国を治めたころ、「龍王之堤」(信玄堤)の工事は、国中地域(甲府盆地周辺)の惣社・府中八幡宮の普請工事に並ぶほど重要視されていました。

龍王之堤



江戸時代にできた「信玄堤」の呼称

堤防の増改築は江戸時代にも継続しておこなわれ、釜無川の下流に延長し、霞堤ができるなど、成立当初と比べ姿も構造も大きく変わっていきました。18世紀半ばに、武田信玄の業績がたたえられるなかで「信玄堤」の名が定着していきました。



『甲斐国志』

文化11年(1814)(甲州文庫)

『甲斐国志』では、当時用いられていた堤から東へ10町余(約1.1km)にある堤を、武田時代のものとして「信玄堤」と呼称しています。堤と堤の間は農地になっていることが書かれています。

この期間に会える!

2023年
10月25日～12月18日

常設展
「水に取り組む」コーナー

常設展
テーマ展示

県立博物館では、約2か月ごとにテーマを変えて、常設展の展示替えをしています。



歴史のなかの生きものたち

2023.8.23[水]～10.23[月]
愛でる・育てる・使う・祈る・食べる。人と動物の多様な関係の歴史をご紹介します。

「信玄公」と山梨の人々

2023.10.25[水]～12.18[月]
今なお敬意を込めて「信玄公」と呼ばれる武田信玄を中心に、戦国大名武田家や、その後の顕彰の歴史をご紹介します。

招福! かいじあむのお正月

2023.12.20[水]～2024.2.12[月・振休]
お正月にちなみ、「めでたい」「ありがたい」資料を取り揃えます。年の初めは博物館で招福!

春の山梨は花ざかり

2024.2.14[水]～4.15[月]
甲府盆地に桃や桜が咲き乱れる春。心が沸き立つ季節にぴったりの資料をご紹介します。

企画展・シンボル展

2023.10～2024.3

企画展

小林一三生誕 150年
宝塚歌劇の世界 —清く、正しく、美しく—
2023.10.14[土]～12.4[月]

日本のみならず世界的に多くの愛好者を持つ宝塚歌劇は、山梨県出身の実業家・小林一三こばやしいちぞうにより始められました。一三は、明治6年(1873)に現在の韮崎市に生まれ、令和5年(2023)に生誕150年を迎えました。この展覧会では、一三が創出した宝塚歌劇の魅力やそのあゆみについてご紹介します。



©宝塚歌劇団

シンボル展 帰ってきた芳年の道祖神祭幕絵

2024.1.20[土]～2.19[月]

江戸時代の甲府城下町では、小正月の道祖神祭りを数百枚にもおよぶ「幕絵」が華やかに彩りました。浮世絵師の月岡芳年つきおかよしとしが描いた幕絵もそのうちのひとつであり、太閤記たいこうきの一場面が勇壮な筆遣いで表されています。この展覧会では、令和3・4年度にかけて解体修理をおこない、往時の姿がよみがえった本幕絵について、修理でわかった新情報なども含めてご紹介します。



月岡芳年筆「甲府道祖神祭幕絵 太閤記 佐久間盛政羽柴秀吉を祖ふ」(当館蔵)

企画展 富士川水運の300年

2024.3.16[土]～5.6[月]

慶長年間すみのくらしりょうい、角倉了以によって開かれた富士川水運(舟運)は、江戸時代を通じて甲斐国にさまざまな物資や文化をもたらしました。明治時代に最盛期を迎え、昭和3年(1928)に身延線が全通するまで、甲斐・信濃の人々の生活を支える物流の大動脈であり続けたのです。この展覧会では、富士川水運のおよそ300年間にわたる歴史についてご紹介します。



富士川水運船着場(当館蔵)

イベントのご案内

2023.10～2024.3

各イベントの詳細は当館ホームページなどでご確認ください。

常設展スルーガイド

常設展のガイドツアーです。
毎週土曜日 11:00～11:30

ボランティアによる お庭の見どころガイド

四季折々の博物館のお庭を散策します。
開催日 10/21、11/18、12/16、1/20、2/17、3/16
時間 13:30～14:30

かいじあむ古文書講座

初めて古文書を学ぶ方のための講座です。
開催日 10/28、11/25、1/27、2/24
時間 13:30～15:00
要申込 ※お申込み多数につき現在受付を停止しております。

古文書相談日

お手持ちの古文書についてご相談ください。
開催日 11/19、1/21、3/17
時間 10:00～13:00
*古文書の全文解読、鑑定など、お受けできない内容もあります。
*申込不要ですが、事前のご連絡があれば対応がスムーズです。
(☎ 055-261-2631)

あそぼう!まなぼう!寺子屋ひろば

展示や歴史を楽しみながら学べる体験イベントです。
毎週日曜日 11:00～11:30

かいじあむ子ども工房

博物館ならではの体験や工作ができます。
開催日 10/14、11/11、1/13、2/10、3/9

館長トーク

当館の守屋正彦館長による講座です。
開催日 11/19、1/21、3/17
時間 13:30～15:00

その他イベント

・かいじあむの秋まつり 11/20
・かいじあむのお正月 1/2・3

2023年

10月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

- 休館日
- 館長トーク
- 古文書講座
- 古文書相談日
- 子ども工房
- お庭の見どころガイド
- その他イベント

小林一三生誕150年 宝塚歌劇の世界 —清く、正しく、美しく— 10/14～12/4

2024年

1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

3月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

日程や内容は事情により変更になることがあります。

帰ってきた芳年の道祖神祭幕絵 1/20～2/19

富士川水運の300年 3/16～5/6

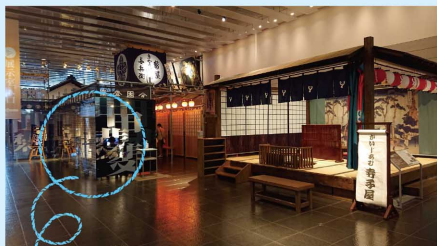
かいじあむトピックス



山梨県立博物館の旬な話題をお届けします

歴史の体験工房

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から利用を制限していた常設展示室内の「歴史の体験工房」は、令和5年5月10日より再開しています。江戸時代の芝居小屋や寺子屋をイメージした空間には、甲府城下町をゲームで体験できる「記憶の現場」や、さまざまな遊びを体験できる「遊びの現場」、山梨の民具や伝統的な生業を体験することができる「なりわいの現場」、昔ながらの計量体験をすることができる「重さの現場」など、楽しみながら歴史や文化に親しめるコーナーがたくさんあります。見て、触って、聴いて、ぜひ山梨の歴史を五感で体験してください。



4つのストーリーが用意されています



江戸時代の甲府城下町の様子をゲームで体験することができます。



お手玉、おはじき、めんこなど、江戸時代から昭和にかけてのいろいろな遊びを体験することができます。



びっくりかえった

利用案内

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 火曜日(祝日の場合はその翌日)

*9/13～15、12/9～11、12/24～1/1、1/10～12は休館。1/2は開館。

観覧料 常設展:一般520円、大学生220円

*高校生以下の方、65歳以上の方、障害者の方(およびその介護をされる方)は無料です。

*企画展には別途観覧料が必要です。県外在住の65歳以上の方は企画展観覧料が必要です。

かいじあむ通信「交い」第58号 〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1

Tel:055-261-2631 Fax:055-261-2632

発行日:2023年9月8日

E-mail:kenhaku@pref.yamanashi.lg.jp

編集・発行:山梨県立博物館

URL:http://www.museum.pref.yamanashi.jp



ホームページ2次元コード



山梨県の古い国名「甲斐国」の語源は街道と街道の結節点を意味する「交い(かい)」であるという説があります。山梨県立博物館が「甲斐」の博物館にふさわしく、人々や情報の交流の拠点となることを願ってこの名前をつけました。